



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.3.19 No. 4361

新たな決意で

反合・運転保安闘争へ

館山支部、銚子支部先頭にダイ改交渉を行う!

すでに日刊等で既報のとおり、三・一六ダイ改をめぐる、全支部において昨年一二月ダイ改以降の問題点を申第一三、一四一六号としてまとめ、千葉支社にぶつけ、二月一五日以降、一六、一九、二一、二六日と五日にわたる団体交渉が開催された。

動労千葉として、この三・一六ダイ改をめぐる交渉を、JR強行以降、奪われた労働条件を奪い返す闘いの第一歩として位置付け、精力的に団体交渉を取り組んできたといえる。特に、このダイ改交渉を準備するにあたって、館山・銚子支部の両支部は、全組合員が調査活動にあたり、PRCプログラム設定による運転時分の遅れ、無理な運転時分設定による行き違い・停車時分・信号による遅れ等を調査し、千葉支社にぶつけてきたところである。

全面的に対立してきた睡眠時間の確保、食事時間の確保という現場からの切実な要求を一顧だにせず、「行路については、就業規則等に基づき列車設定等、様々な制約を加味し作成しているところである。」「行き先地における必要な時間は、可能な限り確保している……。」として、全く受け入れようともしないゼロ回答であった。

しかし、八五年動労革マルが当局に裏切りを宣誓し、続いてきた当局との結託体制も、分割・民営化一〇年を記して大きく崩れようとしている現在、われわれは、労働条件改善闘争に全面的に力を発揮しなければならぬ。

JR総連の裏切りを許さず、全面的な労働条件改善闘争を闘おう!

分割・民営化強行後、国鉄-JRの労働者の労働条件は大きく後退している。分割・民営化が強行されたことには、二つ原因がある。ひとつは主体の側の労働組合がこの攻撃と闘えなかったこと。もうひとつは、労働者の側にJR総連・革マルという裏切り者が出国鉄・JR当局と結託し、労働者の闘う力を削ぐことに全力をあげたことによってであり、現

在もその構図は続いている。そして労働条件改善や合理化に全面的に協力することによってその支配が続いてきた。

とりわけ動労千葉は、千葉局管内が軟弱地盤であったため発生した機関車転覆事故に対する線路調査や外房線の運転規制の闘い、船橋事故闘争や三里塚・ジェット闘争と反合・運転闘争の輝ける闘いをもって全国を牽引してきた。

反合・運転保安確立の闘いこそ動労の本領!

いまこそそうした本領を発揮する時である。睡眠時間が着発五時間を割るような作業、食事時間が着発二〇分の作業、こうした作業を押しつけられてどうして安全が保てようか。

焦点の時

銀行救済—重税の住専処理を許すな

その1

住専(住宅金融専門会社)へ、その怒りは日増しに激しさを増し、全国に広がっている。

当然のことである。バブル経済で破綻した住専—金融機関のツケを労働者人民への重税に求め救済しようなどというものがどうして許せようか。われわれは、あらためて住専問題とは何か、労働者人民のとるべき立場は何かについて捉えなければならぬ。(二回にわたって連載します。)

このため銀行や証券会社、生命保険会社などが母体となって資金を貸し、役員も派遣して、実質上、系列会社として作られたものである。これが八〇年代に入ってから、銀行本体が住宅ローンに参入したため住専は、経営危機に直面する。しかし、バブル景気で不動産むけ融資が急膨張し、ここにとびつき活路を見出していった。

住専とは何か

住専は、もともと個人向けの住宅ローンを中心とする会社として七〇年代に設立された。しかし、銀行とは違って預金を集められず、金融機関から借

りて、それを貸し付ける会社であり、いわゆるノンバンクに当たる。このため銀行や証券会社、生命保険会社などが母体となって資金を貸し、役員も派遣して、実質上、系列会社として作られたものである。これが八〇年代に入ってから、銀行本体が住宅ローンに参入したため住専は、経営危機に直面する。しかし、バブル景気で不動産むけ融資が急膨張し、ここにとびつき活路を見出していった。